岡崎守男先生を称えて

経営学部長　谷　口　照　三

34年もの永きに渡って，桃山学院大学に貢献して頂いた岡崎守男先生が2001年３月31日をもって定年退職される。「定め」の故とはいえ，誠に残念なことである。

先生は，大阪大学を1953年３月にご卒業になられ，同年４月に日本経済新聞社に入社され，その後６年間の大阪証券経済研究所での研究生活を経て，1967年４月に本学経済学部に助教授としてご就任された。1973年４月経営学部が創設されるとともに経営学部に移籍され，1975年10月に経営学部教授となられた。先生は，本学ご就任以来，証券論と演習を中心とし，その他経営学基礎講義や経営学部基礎演習などをご担当された。また，1993年４月大学院経営学研究科修士課程が発足してから今日まで，証券論研究と演習をご担当して頂いている。先生の講義は深みがあり，かつ分かりやすく，また学生に対する教育研究指導はきめ細かく，的を射たものと，学生のみならず，われわれ教職員からも高く評価されている。そのことは，岡崎ゼミナールがかなり以前から毎年石井記念証券研究振興財団の「大学証券研究団体助成」の認定を受け，高く評価されていることからも，裏付けることができよう。

研究面においては，国際経済学会，証券経済学会，金融学会，信用理論研究学会の各学会に所属され，いつまでも衰えることのない「新鮮な輝き」をもって，確かな貢献をなされた。この点と先生のご研究の特徴については，濵田先生の「岡崎守男先生を送る」に，より詳しく，より的確に語られているので，参照されたい。

また，岡崎先生は，大学行政の面においても多大な貢献を果たされた。1984

年4月から1986年3月までの2年間は，経営学部長，桃山学院大学評議委員，学校法人桃山学院評議委員を，また1985年度は学校法人桃山学院理事，国庫助成委員長を勤められた。さらに，1990年4月から1992年3月までの2年間，再度国庫助成委員長に就任された。その後も，自己評価委員長（1993年4月～1995年3月），計算機センター長（1996年4月～1998年3月），経済経営学会長（1992年4月～1993年3月）を歴任された。

先生は，これらの役職に就かれている間，またその後も，決して目立つことなく，淡々としておられるが，豊かで鋭い洞察力を基に，「必要なときに必要なだけ」の誠に的確な意見とコメントによってわれわれの進むべき方向を示され，指導力を発揮されたのである。先生には，今日まで，フォーマル，インフォーマルの両面において，誠に多くの助言や励ましを賜った。先生のこれまでの桃山学院大学と経営学部に対するご高配に感謝すると共に，先生のご功績に報いるために，経営学部教授会は，桃山学院大学名誉教授の称号を岡崎先生にお送りするよう大学評議会へ推薦した。経営学部では，第1号の名誉教授となられる。誠に慶ばしいことである。

岡崎先生，本当に長い間，ご苦労様でした。重ねて心より深く感謝申し上げます。今後も末永くご健勝にてお過ごしになられることを，また折に触れて後進にご高見とご指導賜りますよう祈念する次第でございます。